

第 二

756

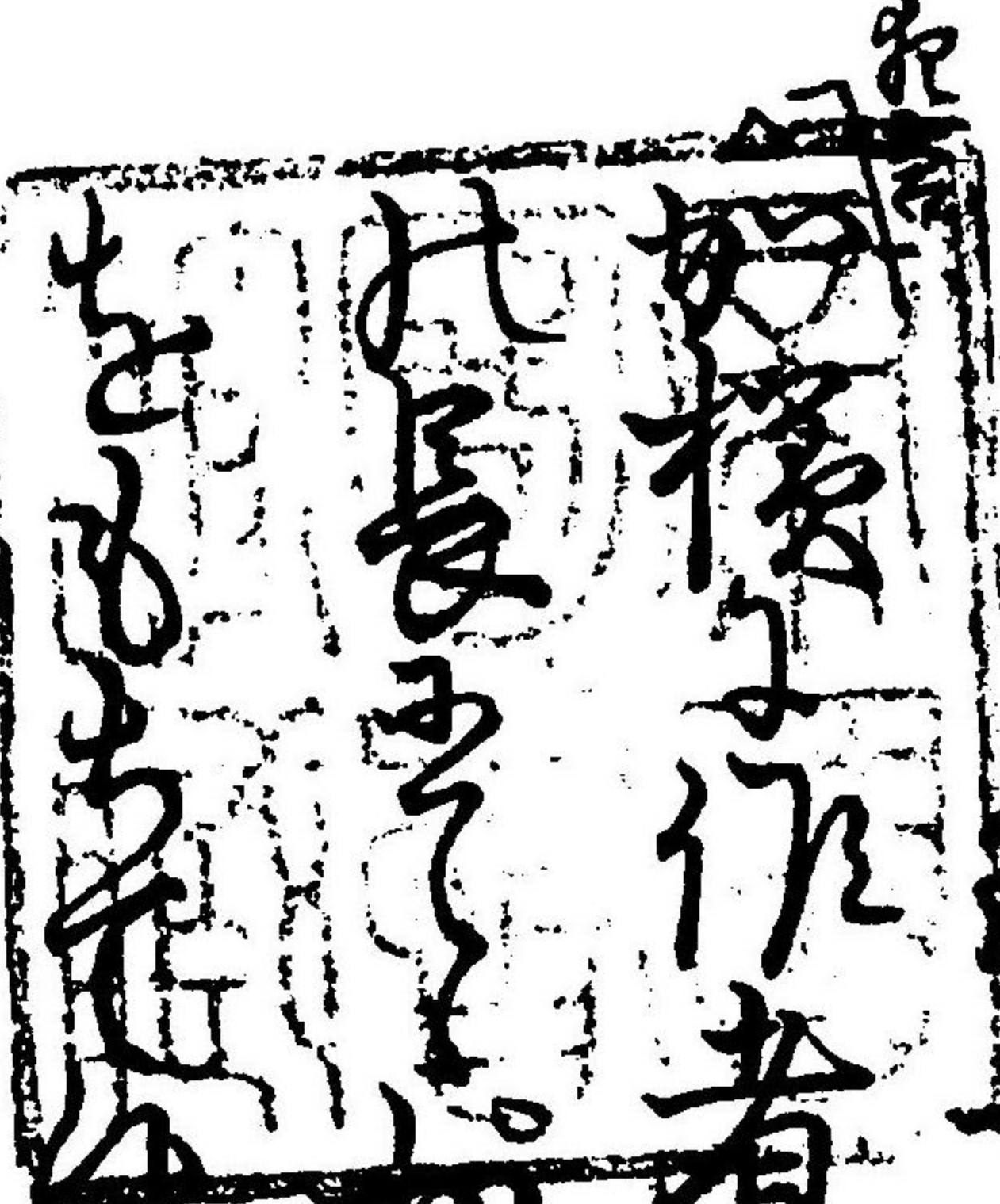
女

256

228

特41
756

如女



好様子作者の美濃國野上

長き母も持たぬ女

きもちやうき喜の比や

こよりの吉田の行殿とや流やん人

れ東へりの捨給が淋宿よとぬり給

く彼花子を愛させたまひきるが

44. 17. 20
交

上トのニあハつテ琴コトのハきハ 夏ナツのハ扇アヒ
と秋アキのハ白露シロツキとハけレきハうハ先マにハむハ乃ハ
床トのハ獨ヒト寝ネのハちハのハまハきハ枕マして
国クニのハ月ツキをハあハらハんハ 月ツキ重ツキカサのハかハれ
ぬハまハのハ扇アヒをハあハまハてハこれハをハあハまハて
花ハナ中ナカのハまハのハ教シぬハれハきハをハあハまハて
春ハルをハ惜シむハ 夕ユフのハあハのハあハのハあハ

けレまハ思シのハのハ素ソあハらハぬハはハのハまハきハ
又マタ鏡カガミのハ音ネをハあハらハ乃ハ山ヤマのハ響ヒビつハ味アジ
あハんハとハてハあハまハをハ倦ウツしハ せハめハてハ国クニ
偏ヒト月ツキのハもハ志シのハ松マツのハ跡アトをハあハらハとハ又マタ
獨ヒト寝ネのハ成ナリぬハるハやハ 翠スズメ樓トウ紅ベニ圍イ
枕マあハらハるハ床ト乃ハとハあハらハあハらハまハのハまハ
すハがハらハもハ同ドウ院インのハ長ナガもハあハらハあハらハ

そなたはあゝ夢の谷のこぼれはりのこ
といつて草の露のまも此翼連理
のあつらひを張山宮乃松語も報
す修へてとる世は偏もらん去きて
も秋妻乃秋より先子かあらば
夕乃夜いまあれどあふ言城あ人
心頼めてこぬあつとそれども標干

よまづうてあゝあゝあゝと詠む
まはるの雲の秋風あらし山は珠
谷もあつ松をさうら音はる也我
まづ今りのたつれはつらう
せめてものあつら扇もよあれて
風乃たよりと思へも夏をたや
ままはるまのあつら風ひるゑのあ

あらまゝ ニあ トわ ト形 トの ト扇 トの トく
程 トら トた トて トあ トる ト物 トの ト人 トの トあ トり トき
る トも トあ トる トこ トの トあ トる トこ トの トあ トる トこ
意 トう トも トく ト早 トの トあ トる ト誰 トが

あ トは トる ト物 トが ト持 トた トる ト扇 トの トな トい
中 トへ トら トに ト程 トあ トる トは トあ トの ト内 トの
程 トの ト物 トの ト扇 トの トな トい トた トま トの

あ トる ト物 トの ト人 トの トあ トり トき
あ トる ト物 トの ト人 トの トあ トり トき
あ トる ト物 トの ト人 トの トあ トり トき
あ トる ト物 トの ト人 トの トあ トり トき
あ トる ト物 トの ト人 トの トあ トり トき
あ トる ト物 トの ト人 トの トあ トり トき
あ トる ト物 トの ト人 トの トあ トり トき
あ トる ト物 トの ト人 トの トあ トり トき
あ トる ト物 トの ト人 トの トあ トり トき
あ トる ト物 トの ト人 トの トあ トり トき

256
228

不製複



明治廿二年六月廿五日從
同 卅四年一月廿八日迄 出版御届濟
同 四十三年三月廿五日再版
同 四十四年一月拾日別製本御届

訂正者

觀世清

(電話番町)



發行兼
印刷者

京都市上京區三条通美屋町東北角

檜

常之

(持電話二五)
(郵券對金大段三六)



ほ乃れぬ夕の。花をさるる扇あり
此上の極老又志多くあつてあつた
扇は後ぞよ果てられずと志られ
白雪乃扇の妻乃かき社りもさあ
常乃精あき

